

四谷の

千枚田たより



第 233 号



田起こしと田んぼとび

一月二十四日、地元の鳳来寺小学校四年生(九人)、五年生(十人)が田起こしに取り組んだ。児童十九人は耕した後に石積み田んぼを飛び降りる「田んぼとび」にも挑戦した。同校は平成二十八年度に鳳来寺、海老、鳳来西、連谷の四校が統合。旧連谷小学校時代から学校田があり、コメ作りをしている。今年度も五年生が「ミネアサヒ」を栽培して九月に稲刈りをした。



田起こしの前に、児童たちは保存会のお爺さんから冬に田んぼを耕すことで一年間、美味しいお米を作るために、稲の栄養補給などでくたびれた土に酸素補給をしたり、耕して凍ることなどで作り土が若返り、美味しいお米ができる大切な作業であるなどの説明を受けた。児童たちは来年度に取り組む四年生に引き継ぐ三枚の田んぼを鍬や備中で耕した。五年生は先輩づらをして真剣？に鍬使いなどの手ほどきして



いる様が可愛かった。作業後には超急傾斜地の日本三大石積み棚田を走って飛び降りる「田んぼとび」にも挑戦。怪我は自分持ちと、入念な準備体操を行い、飛び降りるコースを入念にチェックしながら出発点の「おいわ(大岩)」まで駆け登り、最初は学年別に先生の合図で「田んぼとび」を行った。最大高低差二メートル超もある十五段の石積み棚田を飛び降りた。



二回目は四年、五年生全員で、飛び降りた。四谷の千枚田でこそできるワイルドな遊び(競技)に喜々と

した児童たちのアンコール、アンコールの連呼で、もう一回だけと念押しをして田んぼを飛び降りた。最後に全員で「アラポー」と叫びながら一斉に飛び降り、最高の景色を味わった。

お知らせ

中山間地域等直接支払四谷集落協定(代表 村雲伸一)は活動事業の一環とした生産活動「稲作勉強会」を二月十七日、午後七時から連谷会館において愛知東農協の職員を講師に招き「・稲作における肥料散布について・傷害保険等共済について」を開催します。

試行錯誤

非効率な棚田を保全する試みの一環として、冬期湛水を仕掛けてみた。

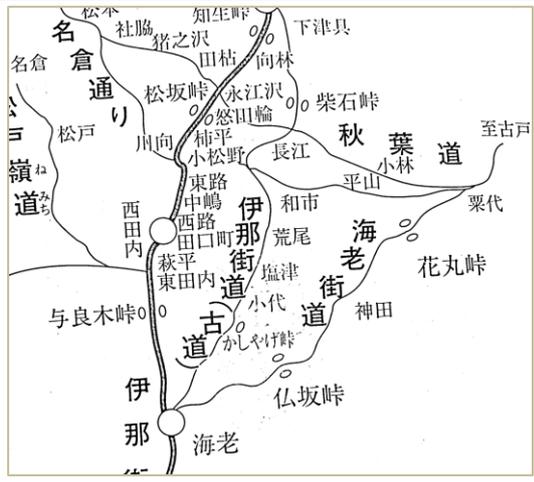
毎年、有機質として野山の干草を田んぼに切り込んでいたが、代掻き後、ほとんどが浮き、排水溝に流れ溜まって厄介である。これを回避できればと冬期湛水を図ってみた。



時代考証

「伊那・海老街道」は、文政年間(1820)から昭和初期(1930)には飯田方面から吉田(豊橋)までの交易路で、経済、文化の中心的役割を持つ物流街道で、一日に百頭もの中馬・三州馬(荷付け馬)が往来していたと云い、街道筋には小間物屋や茶屋、旅籠などもあり、賑わいを見せたと言う。

明治十四年の四谷村を辿ると、家屋六十六戸で八十九頭、連合村は六十七戸で六十三頭の雌馬(木曾馬)が農耕馬、駄賃稼ぎとして飼育されていた記録もあり、活気のある村であったことが窺える。



四谷の千枚田のある集落内に古民家カフェ「たてば」が開店一周年を迎えた。オーナーは毎年六月に開催される「お田植感謝の夕べ」などで灯そう千枚田のイベントで幾何学模様の段々田んぼや農道に千五百本の口ウソクが幻想的に

灯る様に感動。毎年、訪れるごとに千枚田に魅了され、ついつい古民家



コラム
武田信玄は野田城攻めの時、狙撃され、怪我を負い甲府へ引き返す道に伊那街道(古道)海老―西沢―合戸―大代(千枚田)―かしやげ峠―小代―塩津―田口(福田寺)―津具―伊那駒場を通ったと云う)

「朝日差す、夕日沈む、青木の里に黄金千両眠るといふ」
伊勢湾台風までは青木の三段滝付近に武田信玄ゆかりの松の太木があり、「この松の枝一本たりとも拾うことなかれ…」の謂われがあり、埋蔵金探しもしばしばあった。

カフェ「たてば」を開店してしまつたと微笑む。また、「たてば」の所以は、かつて伊那街道(古道)、中馬脇街道といわれた海老街道(ふりくさ道)の二つの街道筋で旅籠茶屋を営んでおり、茶屋の軒先に目印に杖を置くことに因んだものである。

千枚田付近で確認した動物たち
ニホンカモシカ 昭和三十年に特別天然記念物に昇格指定。最近、ニホンジカの侵略拡大で分布域の食料不足や虐め、怪我などがみられ、可哀そうである。



ヤマドリ 一月八日、久々にみた。

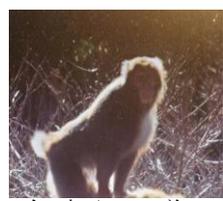
一月初旬から、鞍掛山、赤松、大林付近で時々クマタカの飛来を確認している。へい死個体発見の時間や場所から第一発見者の「夏目宏一」と「クマタカ」の作業ではなからうか?と推測してみた。



テン 久々にみた。
十二月三十日、ハクビシン、アライグマ、アナグマ捕獲のため、合戸川岸に設置した箱罠で捕獲。その昔、ニワトリなど大量に殺傷。イタチの仕業と思われるが、ほとんどテンの仕業であった。(写真上)



又トリア 一月二十八日
初めての確認。豊川下流の佐奈川などでみられる。この地でははじめてであり、とうとう、ここまでも来たかと懸念する。特定外来生物年に二、三回出産し、一度に五匹も子供を産むなど、爆発的に増加するのが特徴。(写真下)



サル 十二月二十日、
昨年は千枚田に大群(五十匹)が出没、稲に大きな被害をもたらした。最近、群れが大きくなったような気がする。

行 令和五年二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二